

平成29年度 重点課題について

● アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の推進について

戸田市では、とだっ子が、変化が激しく将来の予測が困難な時代であっても、自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるように、「21世紀型スキル」、「汎用的スキル」、「非認知スキル」の育成をとおして、「人工知能（AI）」では代替できない能力や「人工知能を活用できる能力」を身に付けることが重要であると考えている。その際、重要になるのが、アクティブ・ラーニングの視点からの学びをいかに実現するかである。

本年度は、文部科学省委託事業「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」を進める中で、戸田市版「アクティブ・ラーニング ルーブリック」を作成し、とだっ子に身に付けたい力を明確にするとともに、効果的な指導等について研究を推進する。

※「ルーブリック」とは、子供の学習到達状況を評価するための評価基準表

● 戸田市新しい学びプログラムの研究（総合的な学習の時間の改善）について

・プログラミング教育の推進

プログラミング教育とは、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる「プログラミング的思考」を育むための日常的な学びである。

発達の段階に即して、「プログラミング的思考」（自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力）を育む。



・経済教育の推進

経済教育とは、環境がどのように変化しようとも、取るべき行動や進むべき進路について最適な選択をするための極めて日常的な学びである。

必然的に「選択」や「意思決定」が求められるアクティビティを通して、個別活動（ワーク等）と集団活動（ディスカッション）を繰り返し、「質の高い選択ができる力」を育む。

※最適な選択：自分の確たる意思を持った選択



● 教育相談・不登校児童生徒支援について

・教育相談体制の充実

多様な社会的背景により課題を抱える児童生徒に対する教育相談を充実させていくためには、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、教職員とは異なる専門性や経験を有する専門的なスタッフを学校に配置し、チーム学校の一員として教職員等と連携を深め、その専門性を発揮していくことが重要である。

本年度は、中学校に加え、小学校にもスクールカウンセラーを配置し、悩みのある児童生徒や保護者へのカウンセリングや、教職員への指導上のアドバイスにより、教育相談体制の充実を図る。

また、市教育センター配置のスクールソーシャルワーカーを1名増員して3名体制とし、児童生徒が置かれた様々な環境の問題への働き掛けに関する充実を図る。

・不登校児童生徒への支援の在り方の見直し

不登校児童生徒への支援の在り方については、文部科学省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」（平成28年9月14日付け28文科初第770号）等を参考に、見直しを図る必要がある。特に、支援を必要とする児童生徒の能力に応じて、それぞれの可能性を伸ばせるよう、本人の希望を尊重した上で、ICTを活用した学習支援や、様々な関係機関等を活用し、社会的自立への支援を行う必要がある。

なお、教育センターは通所希望者に対する支援（ステップ教室）だけでなく、通所を希望しない者への支援等の在り方についても学校と連携し、研究を進める。

● 「小中一貫教育」の推進について

戸田市では、とだっ子の9年間を見通した切れ目のない教育を推進するために、中学校区ごとに「目指す児童生徒像」や「重点目標」を設定・共有し、学力向上、生徒指導、学校行事等における児童生徒の交流の取組を積極的に実施している。

今後、中学校区ごとに合同研修会を実施したり、指導方法の工夫・改善に取り組んだりする取組を一層推進する。